

キャン ドウ

# CanDo アフリカ

特定非営利活動法人アフリカ地域開発市民の会(CanDo)会報 2018年3月 [第82号]

## 総会資料号

2017年度 活動報告 案

2017年1月～12月

2018年度 活動計画 案

2018年1月～12月



ケニア共和国の小学校で:  
保護者の学校運営能力向上と施設拡充



教室の構造補修

ケニア共和国の地域で:  
地域保健ボランティア(CHV)の育成



CHVによる子どもの保護学習会

マラウイ共和国で:



集合村で聞き取り



## 2017 年度を振り返り、2018 年度について考える

代表理事 永岡 宏昌

2017 年度は、ケニア共和国マチャコス地方マシंगा県で、当会は積極的に活動を展開し、小学校では保護者が教室補修を、地域社会では地域保健ボランティア(CHV)が保健活動を活発に行なう状況を形成することができました。

小学校において、保護者の学校運営能力向上も目的として行なっている施設拡充では、既存の教室のレンガの壁を利用し、鉄筋の柱とリングビームで補強する構造補修が主な活動で、順調に展開しました。政府の開発資金である国会議員選挙区基金(NGCDF)で補修に取り組む学校への協力は、議員側の問題があつて作業が中断しました。保護者による環境活動を、5 校で行ないましたが、大きな成果を得るのは難しい状況でした。

学校保健では、県の 2 つの教育区で、エイズ教育研修を修了した教員による、エイズ子ども発表会を 3 校で開催しました。特定校での早期性交渉予防研修を前年度に引き続き 2 校で開催しました。個別校での研修の成果を教員向け集合研修としてまとめ、2 教育区で実施しました。

地域保健では、2 つの準区で地域保健ボランティア(CHV)の育成による地域保健単位(CHU)を形成し、合わせて 8CHU を形成しま

した。さらに、この育成の経験を活用して、他の NGO が過去に形成した CHU の再活性化に取り組み、2CHU で成果をあげました。これらの CHU の CHV に対して、エイズ、子どもの保護、早期妊娠予防、衛生・栄養・子どもの発達、乾燥野菜作りの 5 つの追加研修を実施し、学んだ CHV が住民へ伝える学習会の促進に取り組みました。

他の国に展開するために、マラウイ共和国で活動の可能性調査を 2 回実施しました。

2018 年度は 3 月上旬までにマシंगा県での事業終了を目指します。2017 年度から継続する小学校の教室補修全てを完了します。地域保健では、育成した CHV が住民へ質の高い保健情報を教え、CHV と住民との信頼関係を高めることに協力します。また、CHV が居住する地域の小学校で、保護者や子どもに保健情報を教え、学校での保健活動を形成することで、子どもの健康を保障する役割を継続して担えるよう協力します。さらに CHV を指導する、地域保健普及官(CHEW)への研修を実施して、CHV の活動への理解と意識向上、支援のための知識・技能の向上に取り組みます。

これらの活動をもって、20 年間のケニアでの活動を完了する予定です。

## ケニアの概況

大統領選挙・再選挙の混乱と看護官のストライキの影響

2017 年、ケニアでは大統領選挙をめぐって駆け引きが展開され、多大な時間と労力を費やし、深刻な人的な被害も発生しました。現職の大統領ケニヤッタと副大統領が再選を目指し、野党候補としてオディンガが同じ組み合わせで挑みました。8 月 8 日の投票でのケニヤッタの当選発表に対して、最高裁が選挙の無効を宣言し、再選挙の実施。最高裁によるケニヤッタの再選確認、11 月 28 日に大統領就任式に至りました。投票前の選挙運動から、就任式後も続いているオディンガによる「国民の大統領」宣誓\*の動きなど半年間の混乱は、経済活動の低迷につながりました。投票から大統領の結果発表までは、店が閉まり、車の交通量が激減し、みな家に籠っているようでした。さまざまな局面での野党支持者の不満の表出からの暴動、そして治安当局による死者も出る過剰な対応のほか、現職の政治集会でさえ集合した与党支持者の一部が暴徒化して車両や通行人への強盗を働いた事件が起こりました。与党支持者が野党支持地域に行く公共バスに乗り込み、乗客ひとりひとりに銃をつきつけて、現職に投票するよう迫ったとの口コミ情報もあります。与党支持者が多いと言われる当会事務所近くのスラムでは、外部から侵入した集団による暴動が起こりました。

治安状況が悪くなって家に籠ると、公務員や会社・NGO 勤めの人には有給休暇のようなものですが、小さな経済活動で日々の生活を支えている大多数の貧しい人にとっては、生存を脅かす生計の圧迫です。再選挙の結果発表が、小学生の全国一斉の卒業・進学試験であるケニア初等教育試験(KCPE)の前日に行なわれ、多くの子どもたちに過剰な緊張を強いたことも忘れられません。

また、6 月 5 日から 11 月 2 日まで 5 か月にわたって、公立医療施設の看護官が全国ストライキを行ない、報酬の増額とスト期間中の給与を獲得して終了しました。当会の事業地でも、診療所・保健センターは閉鎖状態が続きました。政府が取り組んできた妊婦の 4 回の産前検診や施設分娩もできないので、妊産婦死亡率は悪化しているはずですが。

これらは、政治家や公務員など比較的力量のある人が、権利と称して不満を行動に移し続けた出来事だといえます。ケニアで本当に必要なことは、貧しい弱い立場の人が、適切に社会サービスの改善を要求して、達成していくことだと思います。

\* 2018 年 1 月 30 日にオディンガによる「国民の大統領」宣誓式が行われ、報道しようとしたテレビ局は、政府により電波停止された。

## ケニア共和国マチャコス地方マシंगा県での活動

ケニアの首都ナイロビ市の東に位置するマチャコス地方は半乾燥地で、雨量に恵まれた中部、西部に比べて、社会基盤の整備が遅れている。これまでに活動を行なった、キツイ地方ムインギ東県とミグワニ県\*と同じ民族グループ カンバ人が住んでいる。

CanDoは2013年10月からマチャコス地方マシंगा県で、小学校と地域社会において教育、保健、環境の分野の開発協力の活動を行なっている。マシंगा県6区で次のように活動を展開してきた。

- ・キバー区、マシंगा区：2013年度～
- ・エカラカラ区、キリヨコ区：2015年度～
- ・カンゴンデ区、イカティニ区：2016年度～



2018年3月でマシंगा県の活動を終了し、ケニアでの協力活動を完了する。

\* キツイ地方ムインギ東県での活動：1998年度～2014年度

\* 同地方ミグワニ県での活動：2011年度～2015年度

### 小学校で

#### ■保護者の学校運営能力向上と

**施設拡充**—教室の構造補修、基礎を保全するための土留め壁造り—

#### 2017年度活動報告

マシंगा県部では、教室の数の不足の問題以上に、老朽化や土壌侵食により倒壊しそうな教室が問題となっていた。2017年度は、新規の教室建設は実施しなかった。また、侵食で露出した基礎を保全するため、土留め壁を造って土を埋め戻す活動については、開始して完了したのは1校となる。主な施設拡充の活動は、既存の教室のレンガの壁を利用し、鉄筋の柱とリングビーム(上部を一周を囲む)で補強する構造補修で、順調に展開した。継続している11校、および2016年度の対象で2017年度に開始した1校で完了した。新規に8校で開始し、2校で完了した。2校では1教室を追加した。教室建設では、保護者と当会で1教室を完成させ、その隣には1教室分の基礎造りと床の設置を行なうが、構造補修の場合、対象となる教室数はニーズと保護者の意欲により異なる。多いところは5教室目となる。

中央政府国会議員選挙区開発基金(NGCDF)の資金を受けて、教室補修を行なう小学校への協力に関しては、助言を行ってきた当会の対象校において、議員側に問題があつて補修の作業が中断した。

#### 2018年度活動計画案

教室の構造補修を6校で完了する。

#### ■保護者による環境活動

#### 2017年度活動報告

2016年度から継続した3校と2017年度に開始した2校で、当会の専門家が保護者への研修を行なった。この地域で緑黄色野菜として摂取される、ササゲマメの若葉を乾燥して、採集時期でなくても使用できるようにする乾燥野菜作りの研修は、5校全てで実施した。うち3校では、栄養面の研修を行ない、乾燥野菜を戻して、豆と白トウモロコシのみの学校給食に混ぜて使う研修も実施した。他には、土壌保全に関しては、Aの形に組んだ木の棒に石を下げる方法で等高線を図るAフレームの研修、石を積んで堤を作る研修を実施した。また、種子の扱い方、部分耕起、苗床、植樹とマンゴーの接ぎ木、と木に関する研修を実施した。

2017年度で活動を終了。

#### ■教員への保健研修

—6区のうち、マシंगा区とキバー区と重なるマシंगा教育区とキバー教育区で実施—

#### ◆エイズ教育研修を修了した教員によるエイズ公開授業とエイズ子ども発表会

#### 2017年度活動報告

ケニアの小学校で1年から8年まで全学年で行なわれているエイズ教育では、教科書の内容も教員の知識も不十分なことから、当会は教員への研修を2014年・2015年に実施した—第1課程は理学的知識、第2課程は低学年の言語科目でのエイズ教育、第3課程は高学年のライフスキルとエイズ教育。

次に修了した教員によるエイズ公開授業とエイズ子ども発表会の開催を促進した。他の教員の前で行なう公開授業は、2015年度から、授業を受けた子どもたちがエイズについて考えて表現する発表会は、2016年度から実施された。

エイズ子ども発表会は、2017年度は3校で実施された。

対象の教育区において、国際援助機関が支援する大規模な教員研修および授業モニタリングが2017年度に実施されたため、当会の促進する小学校でのエイズ公開授業は、多忙を理由に実施されなかった。

2017年度で活動を終了。

## ◆早期性交渉予防研修

### 2017 年度活動報告

早期性交渉による妊娠と中退はマシガ県でも問題となっている。2016 年度から継続して、県教育局から指定された問題が深刻な 2 校で、専門家による予防研修を実施した。

2 教育区でエイズ教育研修を修了した教員を対象とした集合研修を実施した(2 日間)。

2017 年度で活動を終了。

## ■地域保健ボランティア(CHV)による 学校活動の促進

### 2017 年度活動報告

地域保健ボランティア(CHV)の多くは、小学校の保護者なので、小学校の教室補修に参加することで、学校運営に参加する意欲と能力も高めるといふ状況となる。小学校での保健活動につながることを目指して、2017 年度は CHV による栄養と乾燥野菜の学習会を 5 校で開催した。

### 2018 年度活動計画

栄養と乾燥野菜の学習会を 10 校で開き、まず、給食作りに取り入れることを進め、学校保健を促進する。

## 地域社会で

## ■地域リーダーへの 保健とリーダーシップ研修

### 2017 年度活動報告

ケニアの保健システムで重要な役割を担う、地域保健ボランティア(CHV)の育成、そして CHV で構成する地域保健単位(CHU)の活性化の取り組みにおいて、最初に、村長老と地域リーダーを対象とした、保健とリーダーシップ研修を開催している。CHV 育成の意味について理解してもらい、候補の人数、選出の日程、会場について相談する。2017 年度は、8 つ目の CHU 形成のため、カンゴンデ区ムシギニ準区で実施した。

2017 年度で完了。

## ■地域保健ボランティア(CHV)育成

### 2017 年度活動報告

地域リーダーへの保健とリーダーシップ研修に続けて、ムシギニ準区の各村を訪問して、地域保健ボランティア(CHV)の役割を住民に伝えて、研修を受講する CHV 候補を選出した。ムシギニ準区と前年度に CHV 候補選出がすすんでいたカンゴンデ区ミクユニ準区の 2 準区で、保健局と協働で CHV を育

成する研修を実施した。4週で構成され、1週目と3週目は保健局のスタッフと当会の専門家が講義を行なう。2週目は CHV は担当する村の家庭を訪問して、健康に関する情報を収集する。4週目は保健施設での実践で構成される。6月から5か月間続いた、看護官のストライキの影響で、ムシギニ準区の4週目の研修は12月になった。

2016年度までに形成された6つの地域保健単位(CHU)と合わせて、8CHU が形成された(CHU は行政単位の準の規模に相当するが、2016年に形成したズキニCHUは、エカラカラ区ズキニ準区とイカティニ区イトウンドウイムニ準区のそれぞれ一部からなる「合区」)。

2017年度で完了。

## ■地域保健ユニット(CHU)活性化 のためのフォローアップ

### 2017 年度活動報告

地域保健単位(CHU)の活性化のために、保健局が主体となる月例報告会、活動日、対話日、という地域保健ボランティア(CHV)の活動の参与観察を2016年度から継続して行なった。2017年度は、形成した8CHUにおいて、エイズその他の追加研修の実施のほうに重点を置いた。

他団体が形成した既存の CHU を再活性

化するために、カンゴンデ CHU(カンゴンデ区カンゴンデ準区キタンガニ地域)とイトウンドウイムニ CHU(イカティニ区イトウンドウイムニ準区南部)で、複数の村を単位として訪問して、追加する CHV を選出し、これまでの CHV とともに2週間(10日)の研修を実施した。1週目の内容は保健全般、2週目は追加研修のテーマを取り上げる。

### 2018 年度活動計画案

8CHU と既存の 2CHU の活性化を継続。

## ■地域保健ボランティア(CHV)への エイズ研修 修了者によるエイズ学習会の支援

### 2017 年度活動報告

2015 年度に開始した、エイズ研修をカトゥリエ、ミクユニ、ムシギニの 3CHU で行なって8CHUで完了(3日間)。カンゴンデCHUでも行なった(2日間)。修了したCHV自ら参加者を集めて村で開催するエイズ学習会に当会は参を与観察し、助言を行なった。

### 2018 年度活動計画案

イトウンドウイムニ CHU で実施。

## ■CHV へのその他の追加研修と 修了者による学習会の支援

### 2017 年度活動報告

無給で活動する CHV の意欲を高めるために、エイズのほかに2017年度は4つの研修を追加した。

2016 年度から準備を進めてきた子どもの保護を2月、小学校での取り組みをCHVに展開した早期妊娠予防を3月に開始した。8月に衛生・栄養・子ども発達研修を開始した後、計画していた母性保護研修の代わりに、栄養と関連した乾燥野菜作りの研修を加えた。

乾燥野菜作りは2017年度は2CHUで実施し、その他の3つの研修は8CHUで完了した。

子どもの保護、早期妊娠予防研修については、エイズ研修と同様、修了したCHVが地域で開催する学習会を支援している。

衛生・栄養・子どもの発達研修のうち栄養と乾燥野菜作りを合わせた学習会については、地域社会ではなく、小学校における取り組みとして支援している。

### 2018 年度活動計画案

子どもの保護研修を2CHU、早期妊娠予防を1CHU、衛生・栄養・子どもの発達研修を2CHU、乾燥野菜研修を8CHUで実施する。

## ■地域保健普及官(CHEW)研修

### 2017 年度活動報告

地域保健ボランティア(CHV)を指導する地域保健普及官(CHEW)は、公衆衛生官と看護官が兼任している。2016 年度に、地域保健戦略の普及につながる CHV への適切な支援には、看護官への研修が必要ということが明らかになった。2017 年度は、5 か月にわたった看護官のストライキの影響を受けて、研修の実施は延期した。

### 2018 年度活動計画案

保健局と協働で、マシング県の看護官を対象に、5 日間の研修を実施する。ケニア政府がすすめる地域保健戦略について、地域保健単位を構成している世帯の登録の仕方、担当する住民の健康についての報告の方法など、保健面の知識・情報に加えて扱う。

#### \*CHSとCHW、CHU

ケニア政府は、2006 年、地域の住民参加を重視し、保健システムの強化を目指した「地域保健戦略(CHS)」を策定した。重要な役割を担うのが、「地域保健ボランティア(CHV)」。1 人が20世帯(100人)を担当し、情報を提供。病人や妊婦に医療機関への受診を促し、定期的に集まって、状況を報告する。50人前後のCHVで構成されるのが、「地域保健単位(CHU)」で、1単位が5000人を対象としている。

## マラウイ共和国パロンベ県での活動

ケニアでの活動の経験を他のアフリカの国で展開するために、南部アフリカのマラウイを対象として、2015 年度に調査を始めた(北部にある首都リロングウェを拠点に2回)。南部のブランタイヤ市を拠点とする団体と協力の可能性があることから、2016 年度は同市を拠点に2回の調査を行なった。

### 2017 年度活動報告

2016 年度に続き、南部の中心都市ブランタイヤ市の東、モザンビーク国境に近い、パロンベ県で2回の調査を行なった—3~4月、12月。県知事をはじめとする行政官、伝統首長4人、その伝統首長区のリーダーとの会議を行ない、県内11集合村(全43集合村)で初等学校の保護者、住民に集まってもらって、保護者が資金を負担して職人を雇用する形での住民参加型教室が可能か、意見交換をした。そして、県内の初等学校88校のうち、19校で聞き取り、19校(前述とは2校重複)で関係者と話し合い、33校の教室の様子や周囲の土壌侵食の状況を確認した。全ての学校で教室が不足していて、青空教室や草ぶきの仮設教室がみられ、多くの学校で雨が降っても避ける場所さえなく、授業がなくなる状況を確認した。低学年では机や長椅

子を入れる余地がなく、足を伸ばして座って授業を受けるのが一般的で、中途退学により、子どもの数が減少する高学年になって、机いすを使った授業が可能になる。

また、人口保健調査によると、パロンベ県のHIV陽性率は15.5パーセント(全国8.8パーセント)、女性の最初の出産が18.0歳(全国19歳)と高いことから、子どもの健康を守る活動も必要と考えた。初等学校での保護者による施設拡充活動、および保護者による子どもの健康を守る活動からマラウイの活動を開始することとした。

### 2018 年度活動計画案

#### ◆初等学校で

##### ■保護者による施設拡充活動

県執行委員会、区開発委員会と合意形成をし、住民参加型の教室とトイレ建設の研修および実施の手順書を作成する。学校訪問をして、対象となる学校を選定して、施設拡充に向けた研修を行なう。

##### ■保護者による子どもの健康を守る活動

県執行委員会、次に教育区関係者会議で合意形成をし、各種研修手順書の作成を行なう。

## 国内活動

### 2017 年度活動報告

#### ■ 広報

◆会報『CanDo アフリカ』発行：年 4 回、第 78～81 号(3/3・6/2・9/22・12/24)。第 78 号は総会資料号、第 79 号で「総選挙に向けての動き」、第 80 号で「8 月の総選挙、そして大統領の再選挙」、第 81 号で「大統領の再選挙」等の記事を掲載。

◆ウェブサイト：インターン募集、会報のバックナンバー等の掲載の際に更新。

◆ブログ：ケニアでの活動月間報告を掲載。

◆facebook：活動の写真やインターン募集を投稿。

◆勉強会：2017 年度は開催できなかった。

◆イベントに出展：9 月 30 日～10 月 1 日、グローバルフェスタ JAPAN 2017 でパネル展示と物品販売、ゲームのコーナーを設ける(東京・お台場センタープロムナード)。

◆他団体・機関による広報：9 月 30 日、グローバルフェスタ JAPAN2017 写真展の NGO 部門で乾燥野菜入りの給食の写真が優秀賞を受賞(施設拡充・環境活動担当のインターンが 2016 年に撮影)。同フェスタの会場で展示。

#### ■ 他団体・機関との連携・協力

◆教育協力 NGO ネットワーク(JNNE)加盟・運営委員(永岡)

◆(特活)国際協力 NGO センター(JANIC)正会員

◆「世界一大きな授業」賛同団体

#### ■ 活動経験の提供・講師派遣

・『アフリカ教育研究 第 7 号』に論考「ケニアにおける子どもの教育と健康の保障に関する考察—NGO の活動経験を踏まえて—」掲載—代表理事 永岡宏昌

・2 月、国際協力 NGO センター—主催 NGO ガイダンスで講師—事務局長 佐久間典子

・4 月、アフリカ教育研修フォーラムでマラウイ調査について発表—永岡

・『日本の教育協力の歴史(仮題)』の取材を受ける—永岡

### 2018 年度活動計画案

#### ■ 広報

会報発行、ウェブサイト・ブログ・facebook の更新・投稿、イベント出展等を継続する。『CanDo 20 年の歩み』を発行し、20 年の活動の報告会を開催する。

■ 他団体・機関との連携・協力 継続する。

■ 活動経験の提供・講師派遣 継続する。

## 組織運営 総会・理事会／スタッフ／支援および事業委託元機関・団体

### 2017 年度報告

◇年次総会：3 月 19 日、2017 年度年次総会を開催。2016 年度活動報告・会計報告を承認。2017 年度活動計画・予算を決定。

◇理事会・理事懇談会：第 1 回理事会(3 月 19 日)-総会にかける議案を確認／第 2 回(9 月 24 日)-2017 年 1 月～8 月の活動および会計関係の報告、2017 年 9 月～2018 年 2 月の活動計画案を確認／理事懇談会(12 月 27 日)-2017 年度活動報告案、2017 年 1 月～11 月の会計関係の報告を確認。2018 年度活動計画案(暫定版)および暫定予算案、役員改選、給与規定の改定案、ナイロビ事務所書類保管について話し合った。

◇監査：1 月、ナイロビ事務所で監査法人 Easterbrook&Co.による外部監査、2 月、東京事務所で監事による内部監査を実施。

#### ◇スタッフ—ケニア

事業責任者(代表理事兼任)：永岡宏昌(1 月、2～3 月、4～5 月、7～9 月、10～11 月)  
調整員：岩崎敏実、橋場美奈、宇野由起信(～4 月)、松岡由真(3～4 月)、高梨由美(2 月～)、大門史織(\*11 月～)、カンダリ・ムロンジア  
調整員助手：グレース・ティタス(～8 月)、フレドリック・ザンギ、ニコラス・キョコ、ジュリエティ・サミュエル、フェイス・ムモ、ベンジャミン・マウエウ、ルーシー・ムタカ(～1 月)、ニキタ・キン

ゴ(1～2 月)、キャロライン・ヤータ、レイチェル・ムトウア(以上、2 月～)、アントニー・カプティ、キャロリン・ピーター(以上、6 月～)

インターン：甲斐詩織(～1 月)、安田詩香、田口敏広(以上、～3 月)、望月大吾(3～5 月)、岩崎弘治(3～9 月)、白石直子(4～8 月)、木村正司(4～10 月)、大門史織(6 月～10 月\*)、古田幸花(7 月～11 月)、加藤美奈(9 月～)、田中克昌、篠原和珠(以上、11 月～)、瀬田麻美子(12 月～)

専門家：建設—フランシス・ムエンドワ、キエマ・ムワンガンギ／環境—オネスマス・ムトウワ／教育—マーガレット・ムトウガ／保健—ジェイムス・キズク、ミルカ・カワシア・ソビ、ジョセフ・マルキ

#### ◇スタッフ—日本

代表理事：永岡

事務局長：佐久間典子

事務局員：今村純子(～10 月)、飯野ちひろ(11 月～)

#### ◇出張

・ケニア：佐久間(6～7 月) \* 永岡はスタッフの項に記載  
・マラウイ：永岡(3～4 月、12 月)／今村(3～4 月)

#### ◇支援および事業委託元機関・団体

外務省日本 NGO 連携無償資金協力／(独行)国際協力機構(JICA)草の根技術協力事業(パートナー型)／(特活)国際協力 NGO センター(JANIC)／ヤフー(株)

## 事務局から

### 2018 年度年次総会を開催します

日時: 2017 年 3 月 18 日(日) 14:00~16:30

会場: 汐見地域活動センター 会議室 C (東京メトロ千代田線 千駄木駅から徒歩 2 分)

議題: 2017 年度活動報告・会計報告

役員改選

2018 年度活動計画・予算書

定款変更

その他

\* 会員の方は同封の案内を参照してください。

#### 報告

##### ◇組織

○2017 年 12 月 25 日、理事会懇談会を開催。

2017 年度活動報告(案)、2017 年度 1 月～11 月の会計状況の報告を確認し、2018 年度活動計画案(暫定版)と暫定予算案を検討。

##### ◇国内活動

○12 月 28 日、ケニア大統領選について永岡がジェットロ調査レポートの取材を受けました。

#### 人の動き ~2018 年 2 月 12 日

・2017 年 12 月 24 日、代表理事(兼事業責任者)永岡宏昌がマラウイから帰国。

・2018 年 1 月 5 日、永岡がケニアに出張。

・2 月 1 日、元インターン井町友香を短期インターンとしてケニアに派遣。

・2 月 12 日、インターン 田中克昌が研修期間を終了してケニアから帰国。

■次号は、2018 年 6 月に発行し、ケニアにおける 1998 年からの活動をまとめた、『CanDo 20 年の歩み』を同封する予定です。

#### CanDo アフリカ [第 82 号]

2018 年 2 月 28 日発行

発行人: 永岡宏昌

編集人: 佐久間典子

発行: 特定非営利活動法人アフリカ地域開発市民の会 (CanDo)  
〒110-0001 東京都台東区谷中 2-9-14 第 2 森川ビル B 号室

電話/FAX: 03-3822-1041

電子メール: [tokyo@cando.or.jp](mailto:tokyo@cando.or.jp)

ウェブサイト: <http://www.cando.or.jp/>

郵便振替: 口座番号 00150-2-15129 加入者名 アフリカ地域開発市民の会